



文部科学省

人的交流及び科学技術 の分野での 日米協力について

令和6年7月4日（木）



日米首脳会談にて、両首脳は、揺るぎない日米関係の礎は人と人との絆であり、これを一層強化するべく、人的交流を更に促進していくことが重要であることを再確認した。

人的交流分野における日米首脳共同声明の概要(文科省関連抜粋)

- ◆ G7広島サミットの際に署名された教育分野における協力覚書に基づき、日米関係の未来を「描く(map)」日米の高校生・大学生のため、新しい**1,200万ドル**の「**ミネタ・アンバサダー・プログラム(MAP)**」教育交流基金を通じ、生徒・学生の流動性を高めることへのコミットメントを発表。
- ◆ **日本学生支援機構**を通じて**日本人学生への奨学金を拡充**する新たなイニシアティブを歓迎。
- ◆ **フルブライト・プログラム**の奨学金に関して、**科学・技術・工学・数学(STEM)分野**への**奨学金支給の50年ぶりの再開**、及び日本人奨学生に対する授業料上限撤廃を歓迎。
- ◆ **米国における日本語教育**に関し、**日本語・日本文化の専門知識を共有する機会を増やすための協力覚書**を発表。





2024年4月9日、岸田総理の訪米の機会をとらえて、以下の科学技術協力に関する合意文書に署名。

文部科学省とNASAとの間での月面探査に関する協力

- 日米首脳共同声明において、日本人宇宙飛行士が米国人以外で初めて月面に着陸するという共通の目標に合意。
- 文部科学省と米航空宇宙局(NASA)との間で、「与圧ローバによる月面探査の実施取決め」に合意し、署名(於:NASA本部)。

【実施取決めの主な内容】

- NASA: 日本人宇宙飛行士の2回の月面着陸の機会の提供。
- 文部科学省: 与圧ローバの開発と与圧ローバ運用期間中のメンテナンス等の実施。



右から:盛山文部科学大臣、NASAネルソン長官



TOYOTAとJAXAが開発する与圧ローバのイメージ
【出典】TOYOTA

日米大学と企業間のAI研究パートナーシップ

- 日米首脳共同声明において、AI研究に関する日米の大学と企業による新たな連携の枠組みの構築を表明(1億1,000万ドル)。
- 日米大学と日米企業との間で、AI研究分野におけるパートナーシップ合意文書へ署名(於:米国商務省)。
- 今後、arm及びソフトバンクグループ、NVIDIA、Amazon、Microsoft並びに日本企業9社からなる企業連合からの資金提供を通じ、ワシントン大学及び筑波大学間、並びにカーネギーメロン大学及び慶應義塾大学間で、AI研究分野における研究、アントレプレナー、人材育成及び社会実装で協力。



右から:盛山文部科学大臣、沼本マイクロソフトCMO、天谷慶應義塾大学理事、ハースARM代表取締役CEO、ジャハニアン・カーネギーメロン大学長、レモンド商務長官



右から:盛山文部科学大臣、フィンクルNVIDIA副社長、永田筑波大学長、セリオ・ワシントン大学プロボスト、ザボルスキーAMAZON上級副社長、レモンド商務長官